



【全国アマモサミット2018 in 阪南】 実行委員会 設立趣意書

わたしたちのまちには、人々の暮らしのすぐそば・程よい近さに山・里・海があり、それぞれは個別のものでなく、交じり合い繋がりがいい、人々は、山・里・海の持つ豊かさや恵みを日々感じながら、暮らしています。

そして、わたしたちのまちの里海では、漁業や水産加工業を通じ、海を守り、人々が海の恵みを楽しむ営みが綿々と受け継がれ、また、アマモの保全・再生などの様々な活動を通じ、多くの市民・団体の皆さんが、人々が海と親しみ、海とふれあう場を繋げています。

このアマモの保全・再生活動には、地元小学校の児童たちも参加し、この活動を通じ、子どもたちが、海と人との関わりを知り、このまちの豊かな里海を自分たちのこととして考える場となっています。

これらは、古来、茅渚(ちぬ)の海や魚庭(なにわ)の海とも呼ばれ、魚介類の豊富な、海の恵みを人々に与え、また、多くの人々にとって今よりずっと身近な存在であった大阪湾を、今一度、身近なものとし、親しみ、触れあい、共有し、発信することでその魅力を再発見し、そして、次の世代へと繋げていくものだと考えています。

このような、本市の持つ里海の豊かさ、海と人との繋がり、本市の魅力を、皆さんとともに共有し、発信し、繋げていく。そして、その仕組みづくりを行う。

このことをより進めるため、平成20(2008)年の横浜大会以来、海のゆりかごといわれる「アマモ」や「アマモ場」を象徴的なキーワードとして、海の自然再生・保全を目指し行われている「全国アマモサミット」を、平成30(2018)年11月に『全国アマモサミット2018』として、本市で開催することといたしました。

ついでに、阪南のアマモ、山・里・海、大阪湾、そして全国の海に携わる皆さんとともに「全国アマモサミット2018 in 阪南実行委員会」を設立いたします。

平成30年5月9日

全国アマモサミット2018 in 阪南実行委員会
大会長 阪南市長 水野謙二